

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

齋藤昌之

○富山県富山市

小中一貫的連携教育について

【所見】

富山市の中心地にあった4つの小学校が少子化やドーナツ化現象等により統廃合して平成20年に芝園小学校として現地へ移転したものである。同時に小・中学校一体型校舎として、小中一貫的連携教育を行っている。

特徴とすると、小学校ではプログラミング教育を導入し、外国語教育に3年生～4年生35時間、5年生65時間、6年生60時間を充てている。また、少人数指導教員を2名配置し、習熟度の低い児童へ対応している。

芝園中学校の特徴は、平成27年度から学校選択制を導入していることや、校是と校訓があり、教育熱のある地域である。運動部へ70%、文化部へ25%が入部しており、小学校と一体型の校舎であるため中1ギャップの解消につながっているとのことである。

この学校では、あくまで小学校6年、中学校3年という捉え方に基づいた教育方針であり、小中合同でのイベントや、教員や児童生徒の交流を通して、小学校から中学校へのスムーズな移行を目指している。

足利市においても小中一貫校、義務教育学校、学校選択制等の議論は一般質問等でされたことはあったが、本市の教育委員会は消極的な対応のまま現在に至っている。この学校問題を議論するきっかけは残念ながら人口減少、児童生徒の減少といった社会問題が起因である。現状としても名草小学校、大月小学校、久野小学校で複式学級が実施されており、地域によっては学校存続も危惧されている。

本市の教育委員会としても、将来予測を捉えて、これからの本市の教育をどうするか、様々な対応策を早急に検討すべきであると考え。本市はこれまで、小学校の統廃合では苦勞した経過があるが、社会情勢から考えても、さらなる小学校の統廃合は避けて通れない問題であると認識している。そのため一般質問でも指摘しているが、地域や保護者に対して同様の問題意識を持ってもらえるよう積極的な情報提供をしていくことが大変重要になってくると考える。

○石川県金沢市

金沢市における美しい景観のまちづくりについて

【所見】

金沢の街は加賀前田家により城下町が形成され、なおかつ戦災に遭わなかったことで現在の景観の根本があり、それに金沢市の景観の維持、保存への数多くの施策が相まって素晴らしい街ができている。

特徴としては金沢市全域を景観計画区域に指定し、景観形成区域として伝統環境保存区域、伝統環境調和区域、近代的都市景観創出区域と分けて景観と都市発展の両立を図っている。また、条例制定により積極的な景観行政を行っていると同時に景観に対する補助制度も充実しており、90を超える様々な補助制度が用意されている。

また、中心部を流れる2本の河川があるが、これも「犀川及び浅野川における美しい川筋景観の保全に関する条例」として平成29年に制定したが、この条例により河川管理者との協議機会が増加したとのことである。

足利市も鏝阿寺西地区の家富町周辺を景観重点地区に指定したが、イメージが確立されていないように思える。区画整理事業との絡みもある中、本市の特徴である歴史観を感じられるたたずまいを演出できるまちづくりが求められると考える。道路の形状や材質、住宅の形状や色、防災面での配慮等、中途半端なものではない。

本市の特徴は「歴史ある文化都市」と多くの市民が共通認識としている。そのアイデンティティを前面に打ち出した景観を創出することが重要である。

本市の景観保存や創出に対する補助制度の充実は重要である。景観重点地区においては住居以外でも路地の保存、竹垣や生垣、塀なども演出材料として重要であるため、これらの分野でも補助制度の拡充が必要である。

また、本市を流れる渡良瀬川の川辺景観を生かすことも今後の課題である。さらに、中橋架け替えが本格化するが、このランドマークとも言える橋の形状をどうするかという点も大いに議論が必要である。

景観とは機能性、効率性だけでははかれない様々な効果が期待できる。足利です！そう胸を張って誇れる街を創出したいものである。